

豊橋

## 『商店街はなぜ減びるのか』

新 雅史 著 (光文社新書) 2012

最近、若手の社会学者の新書での活躍が目立つ。学生諸君に紹介できる新書というレベルの読みやすい本で、しかも中身が充実しており、社会的な新しい現象を扱ったものということで、この書を取り上げた。著者は東大社会学上野ゼミ出身。ちなみに本人が著書をわかりやすく語るニコニコ動画の映像(郊外論の三浦展氏との対談)もあるのでこちらでも参照されたい(<http://www.nicovideo.jp/watch/1349844427>)。豊橋もそうだが、地方はシャッター商店街状態で、各地のまちおこしの拠点として商店街は注目されつつある。商店街はまるで地域の伝統の場のように語られるが、実は20世紀になって、露天商から始めた零細小売商の救済から人為的に作られた、社会的包摂の装置としての近代的存在であることを著者は解き明かす。被災地ではいま社会的拠点となっている商店街を歴史的にリアルに描き出し、どのように維持可能性があるか世に問うたものである。



名図開架 673.7:A66  
豊図開架 673.7:A66



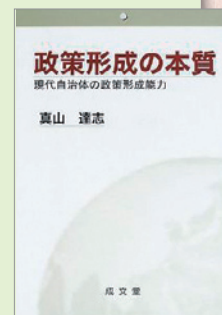
檜村 愛子  
文学部

豊橋

## 『政策形成の本質』

真山 達志 著 (成文堂) 2001

政策とは何か、行政のどこが問題なのか、なぜ、市民は不満に思うのかといった点は、いずれも政策の背景にある問題をどのように捉えるかで鮮明になります。この問題発見能力をわかりやすく説明したものが本書です。本書は、自治体行政をテーマにしていますが、民間企業の社員に求められている能力にも直結する内容です。何が問題かがわからない人は、いつまでも誤った解決策しか提案できません。ところが、そのような人は、意外に多いように思われます。別言しますと、だからこそ問題発見能力を身に付けければ、社内、庁内で優れた人材であると評価されるわけです。レベルの高い内容を簡単な表現で記載されているため、ストレスなく一気に読み終えることができます。是非、一読を。



名図開架 318:Ma98  
豊図開架 318:Ma98



野田 遊  
地域政策学部

オススメ

## への推薦図書

## 『死の島』

福永 武彦 著 (新潮社) 1988

いまは池澤夏樹の父として知られる福永の、原爆をテーマとするこの小説に、二〇世紀長編小説の読み方——断片化しモザイク化する時間と、複数の登場人物の視点から複雑に絡み合い、ある時代状況を生きるひとびとを浮き彫りにする——を学び、そのあと一九世紀後半のドストエフスキー『悪霊』に、この世界ではどんな悪意に満ちたことでも起こりうる、ということを学んだ。いずれも語り口、登場人物とも一筋縄ではいかず、結局、この世界ではどんな悪いことも起こりうるけれど、その中でも人は生き続けようとする、という、希望を、学生時代の私は読み取っていたのだと思う。(昨年、震災直後のTVアニメ『魔法少女まどか☆マギカ』にその感覚を鮮烈に思い出していた。)

豊図書庫 918.6:F79:10  
918.6:F79:11  
[福永武彦全集]



安 智史  
短期大学部



(写真は文庫版)

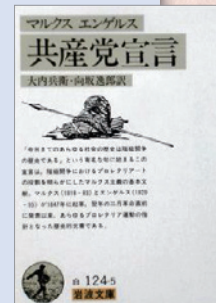
## 『共産党宣言』

マルクス、エンゲルス 著 (岩波文庫) 1951

大学生となり自分の見方を変えた本は、マルクス、エンゲルスの『共産党宣言』(岩波文庫)でした。唯物論や弁証法等の認識論やその論理に魅かれました。その後、マルクス主義はソ連の崩壊とともに色褪せた世界観となり、隅に追いやられましたが、最近は格差問題が広がる中で復権しつつあるようです。

ソ連建国はマルクス主義の壮大な実験となりましたが、その結果は皆さんご存知のことです。しかし、観念のウイルスとなったマルクス主義は絶滅せず種の保存に成功したようです。学生の皆さんには、物の見方や考え方に触れた書物を読んで欲しいと思います。

他人から知識を吸収する時間に対して、本から多様な知識を得るための時間は十分あります。是非、多くの本を手にとってください。



名図文庫 309.3:Ma59



林 隆一  
会計大学院

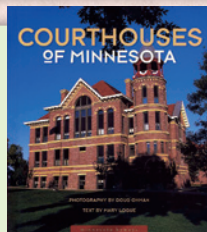
## 『Courthouses of Minnesota』

Doug Ohmman 著

(Minnesota Historical Society Press) 2006

アメリカの裁判所を見たことがありますか? 有名なのは1935年に建てられた現在のアメリカ連邦最高裁判所\*でしょう。その雄姿を下記URLで一度ご覧下さい。しかし、アメリカの各地には、もっと素晴らしい裁判所建物(Courthouse)があるのです。紹介する本は、ミネソタ州の全域に散在する裁判所建物の写真集です。アメリカの州は、それぞれ数多くの郡(County)を持ち、郡ごとに裁判所建物を持っています。掲載されている裁判所建物は、個性的であり、優雅であり、秀美です。建物自体が、法と正義の威厳を物語っています。ぜひその姿を見て魅了され、そこからアメリカ法にも興味を持っていただければと思います。これも新しいアメリカ法入門ですね。

\* <http://www.supremecourt.gov>



名図研究 526 : 029



伊藤 博文  
法科大学院